

# からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……2026.5.11-5.17

<p>5.11 月曜日</p>	<p>「それから、イエスは言われた。『全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』」(マルコ 16:15) ●よく教会は社会問題に取り組むべきか否かが議論されます。人権研究者の森島氏は教会の使命は福音伝道であるとしたうえで次のように語ります。「(福音伝道とは)具体的には、今ここに生きておられる十字架のキリストを紹介することです。そこで示されたイエス・キリストの父なる神に、恵みによって従う信仰を創造することです。その神に造られた新しい人間が社会に派遣されてゆくことによって、結果的に神に喜ばれる生き方を通して新しい社会形成に貢献することは起こりえるでしょう。」(森島、73頁) 教会の福音伝道の業は、結果として社会貢献を生み出すのです。</p>
<p>5.12 火曜日</p>	<p>「しかし、イエスはこれを見て憤り、弟子たちに言われた。『子供たちをわたしの所に来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。』」(マルコ 10:14) ●言語学者ヤコブソンは、大人は理性的な書き言葉としての「散文言語」で話し、子供は音やリズム重視の「詩的言語」で話すと言いました。詩的言語は行動に直接結びつき、理性を超えた世界(天、霊、神など)への応答を生み出す言語体系です(宮台、328頁)。ゆえに、イエスさまは、ご自分の言葉を理性を超えた「信仰の言葉」として真直ぐに受け入れることができる子どもたちこそ、ご自分の近くにいるべきだとしたのです。イエスさまの弟子たちが学者ではなく、普通の、それも無学な人々であったのはここに理由があるのです。</p>
<p>5.13 水曜日</p>	<p>「主は再び、わたしに言われた。『行け、夫に愛されていながら姦淫する女を愛せよ。イスラエルの人々が他の神々に顔を向け、その干しブドウの菓子を愛しても、主がなお彼らを愛されるように。』」(ホセア 3:1) ●ホセアは神の預言者として、神自身が体験してきた「愛する者からの裏切り」と「裏切った者を贖う(買い取る)」ことを体験するように命じられます。この世界には不条理がはびこっています。両陣営が自分の正当性を主張し合っています。どこかで誰かが、責任を引き受けることで争いを集結させなければなりません。それを、行ったのが主なる神であ</p>

り、イエスキリストでありました。ホセアは神と人との間に立って自分を犠牲にすることで平和をもたらすクリスチャンの模範となりました。

5.14  
木曜日

**「わたしは背く彼らをいやし、喜んで彼らを愛する。まことにわたしの怒りは彼らを離れ去った。」**(ホセア 14:5) ●ホセア書の全体に渡って叙述される北イスラエルの背信と、それによるサマリア陥落という決定的な破滅の後に、神は、それでもなお、ご自分の民を愛しておられる姿がここに示されています。神は、立ち返った者だけを愛するのではないのです。背くままのイスラエルを「にもかかわらず」愛するのです。

5.15  
金曜日

**「実に、私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです」**(エフェソ 2:10) ●絵画や音楽、書道、華道など、なにか作品を作ることは、時間がかかるものです。自分の生活や時間、労力、これを総動員して「作品」作りに集中します。神は、私たち人間をいとも簡単に作ったものではありません。ご自分の実存をかけて、ご自分の存在をかけて作ったのが私たち人間なのです。

5.16  
土曜日

**「律法によって義とされようとするなら、あなたがたは誰であろうと、キリストとは縁もゆかりもない者とされ、いただいた恵みも失います。」**(ガラ 5:4) ●皆さんは掟と法の違いを御存じでしょうか。掟はその共同体で全員が「それはやっちゃだめだよ」と合意しているルールのこと。法はその共同体の全員が合意はしていないが、それを破ると罰せられるので仕方なく守るべきルールです。いわば旧約聖書の律法はここでいう法でした。しかし、キリストの十字架によって法は掟に取り替えられます。キリストに救われた私たちは、内側から、隣人を愛するためのルールを守るように変えられてゆきます。キリスト者は「イエス・キリスト」という掟に全員が同意し、信仰し、礼拝します。クリスチャンに嫌々信じている人はいません。なぜならキリスト教は“法”ではなく“掟”だからです。

5.17  
日曜日

**「清い良心の中に信仰の秘められた真理を持っている人でなければなりません。」**(1テモテ 3:9) ●パウロは、教会の奉仕者は“清い良心”を持つべきであると語ります。「清い良心」とは本来私たちが考える、「〇〇をしてしまうと罰せられる」という恐怖によって正しい行動を行う良心ではありません。罰や“法”の恐怖に一切縛られることなく、内から湧いてくる自由と愛によって正しいことをしてしまう心の働きこそ「清い良心」です。これはキリストによって与えられる力によってのみ可能となる心であり、人間の解放なのです。